

園長にのぞむもの

同じ屋根の下に毎日を送りながら、朝の挨拶などかわすこともほとんどなく、顔を合せない日も多い園長先生、時々兼任園長ってこういうものなのかしら、これでよいものなのかしらと考えさせられています。

小学校の校長先生と幼稚園の園長先生という存在は同等であるべきではないかと思いますが、あまりに離れすぎてはいないでしょうか。「私の本職は校長だから。」とおっしゃいませんか。「こちらでは」とか「私の方では」とか云うことはすべて小学校のことを意味しているのです。名前だけの園長先生であり、ほとんど主任にまかせてあるようなないような状態。そしてそこに起きてくる喰い違い

(またはまざつとかずれ)。こうしたことは若い者にとつてはどうにかなるのではないか、もつとぶつかっていきけるのではないかと考えながら結局はどうすることも出来ないのです。少し年上の人たちは仕方がないというようなあきらめとなり、直接園長先生と交渉のある主任の先生には愚痴こぼしとなつているような感じが致します。

園長先生自身の責任ばかりとは申せませんが、何よりも幼児教育をもつとしっかりと把握し理解して下さることが一番だと思います。月刊雑誌もいろいろと出ておりますが、そのうちのたとえ一冊にでも目を通していただけたならと思います。研究会もあちこちで催されますが、

そうした会に出席されるのは二、三名の知れた園長先生にすぎません。一年に一度や二度は機会を持ちいろいろな場面を見たりあるいは聴いたりしながら幼稚園を知っていただきたいのです。

職員会の席で保育に関しての突込んだ話し合いなど持てたならどんなによいでしょう。人数の少ない幼稚園では一人という存在は、非常に重要なのですから。

また子どもたちとの接触、幼稚園に男の先生がいなかったためか園長先生をととても喜びます。久し振りに会った園長先生を夢中になって呼び続けます。けれどその返事は「もうよい。わかった。静かにして。」というのでは……園長先生らしくと云つては少し生意気かもしれませんが、やはり子どもたちに親しまれる先生であつてほしいと思

います。

時々一しょに遊んでくれる、一月に一度くらいお弁当を一緒にいただく、あるいはお話や紙芝居をして下さる。子どもたちの喜び親しみはどんなでしょう。決して出来ない相談ではないと思うのですが。始業式や修業式など何か事ある時だけ子どもたちの前で話す先生であつてもいい、たくはないのです。

私たちが友だち同志が集まり保育について話しあう時、お互に求め与えあいながら次の段階へと少しずつ進歩しているつもりです。しかし特別な園を除いてほとんど共通することは園長先生の保育に対する無関心さ(柔らかく云うならば低調な考えかた)であつて進歩しない問題でもあるわけですから。

もつと話し合える、頼つていくことの出来る園長先生になつて下さるようのがぞみます。